

2012年11月7日ランチョン報告会発表レジュメ

堀口大樹（東京外国語大学博士後期課程）

『ラトヴィア語における借用語の動詞の接頭辞付加』

発表の目的

- ・借用語の動詞の接頭辞付加のメカニズムや数的動向の調査
- ・言語の規範と実態からみる借用語の動詞の PFV（パーフェクティブ）化

発表の前に

- ・ラトヴィア語について

印欧語族バルト語派。ラトビアの唯一の国語。国内の人口約 220 万人の約 6 割が母語話者。

- ・ラトヴィア語の借用語の動詞

interpret-ē-t 「解釈をする」 sport-o-t 「スポーツをする」

動詞接尾辞（-ē/-o-）と不定形語尾（-t）が付加される

- ・ラトヴィア語のアスペクト

一部の動詞に接頭辞の有無によるアスペクトの対立がある

PFV (perfective) uz-rakstīt 「書く (PFV)」 非進行、具体的な動作…

IPFV (imperfective) rakstīt 「書く (IPFV)」 進行、一般的な動作…

0. 問題意識

0.1. 言語活動としての接頭辞付加

- ・語形成（語の派生）の「活動的性格」（Zemskaja 2009）

動的プロセスとしての語形成に注目

借用語の動詞への接頭辞付加…接頭辞付加への話者の関与を観察しやすい

接頭辞は主に空間的意味、アスペクト的意味で基動詞を意味修正

privatizēt 「民営化する」 → ie-privatizēt 「部分的に民営化する」

ofšorizēt 「オフショア化する」 → no-ofšorizēt 「オフショア化する (PFV)」

klonēt 「クローンで作る」 → sa-klonēt 「クローンでたくさん作る」

komentēt 「解説する」 → ie-komentēt 「コメント欄にコメントする」

tvītot 「ツイートする」 → ie-tvītot 「ツイッターに書き込む」

gūglēt 「ググる」 → pa-gūglēt 「ググってみる」

kopēt 「コピーする」 → iz-kopēt 「(パソコン上で) コピーして抜き出す」

接頭辞付加のメカニズムは類推 (Zemskaja 2009)

例文 1 (Druva. 10.08.2002)

Nopietni domā un paša vārdiem sakot, aizanalizējas.
真剣に 考える-現3 そして 自分-属 言葉-複具 言う-副 分析にふける-現3

[現代人は] 真剣に物事を考え、僕の言葉で言うと、分析にふけてしまう。

aiz-analizēt-ies 「分析にふける」 接頭辞 aiz- +再帰要素 「没頭」

aiz-domāt-ies 「考え込む」 aiz-sapņot-ies 「夢にふける」 aiz-sēdēt-ies 「座り込む」

例文 2 (Druva. 06.03.2007)

Tomēr internets arī palīdz sazināties ar draugiem un radiem, kuri ir
やはり インターネット も 助ける-現3 連絡を取り合う と 友人-複 そして 親戚-複 関代 be-現3
ļoti tālu. Citkārt varbūt nesazvanītos, nesarakstītos, bet internets to
とても 遠い 昔 多分 否-電話をし合う-願 否-書き合う-願 しかし インターネット それ
visu atvieglo. Tas ir arī lētāk. Bieži vien ar draugiem saskaipojos
すべて-対 簡単にする-現3 それ be-現3 も 安い-比 よく 助 と 友人-複 スカイクをし合う-現1 単
(saziņas programma Skype – red.), papļāpāju.
通信-属 プログラム 編集部 少しおしゃべりする-現

やはりインターネットは、遠くの友人達や親戚達と連絡を取り合うのにも役立っている。昔なら電話や、手紙でも連絡を取り合わないなんてこともあったけど、インターネットならすべて簡単にできる。それに安いし。よく友人とスカイクで連絡を取り合って (編集部注記: スカイクとは通信プログラムである)、おしゃべりをしているよ。

sa-skaipot-ies 「スカイクで連絡を取る」 接頭辞 sa- +再帰要素 「相互動作」

編集部注記はスカイクの説明のみ→動詞の構造の説明は不要だから

テキスト中の、同じ構造と意味を持つ動詞の存在

sa-zvanīt-ies 「電話し合う」 (zvanīt 「電話をする」) sa-rakstīt-ies 「文通する」 (rakstīt 「書く」)

0.2. 言語の規範と実態

言語文化論 (valodas kultūra)

規範主義に基づき、“正しくない” “好ましくない” 言語形式を批判し、その代替りの言語形式を推奨するラトヴィア語学の下位分野。いくつかのタイプの接頭辞付加が批判される。

1. 借用語の動詞

『借用語辞典 (Svešvārdu vārdnīca)』(25000 語収録, 2008) から 596 の動詞、発表者が収集したその他 634 の動詞、計 1230 の動詞→『借用語の動詞リスト』。

多くは国際的借用語 (internacionālismi) 「発音・書記・意味の点で対応し、少なくとも 3 つの異なる語派の言語で用いられる語」 『言語学基本用語辞典』 2007

文体的に様々 (中立的、学術的、口語的)

2. 借用語の動詞の接頭辞付加の数的動向

接頭辞動詞の用例収集には、主に『新聞図書館』(<http://www.news.lv>)を使用、並行してラジオ番組『よりよく生きるには (Kā labāk dzīvot)』(<http://www.radio.org.lv>)を試聴

・理論的に可能な接頭辞動詞の総数 13530 (1230 の基動詞 X 11 の接頭辞)のうち、実際に用例が確認された接頭辞動詞は 19.5%

・少なくとも 1 つの接頭辞が付加される借用語の動詞は 1230 のうち 63.7%

・1230 の借用語の動詞に対する各接頭辞の付加率：

no-	40.0%	sa-	25.8%	ie-	25.0%	iz-	23.3%	pār-	23.3%	pa-	20.6%
pie-	13.8%	aiz-	13.1%	uz-	13.1%	at-	9.1%	ap-	7.8%		

3. 借用語の動詞の PFV 化の接頭辞付加

3.1. 言語文化論から

借用語の動詞にはすでに PFV の意味があるので、接頭辞で強調する必要はない (Ozola 1984 など)

ロシア語のアスペクト対立のモデルの影響 (Kalna 1988 など)

!! 基動詞のアスペクトに対する研究者の解釈の違いの指摘 (citēt 「引用する」は PFV か? IPFV か? それとも PFV/IPFV か?) (Šmidebergs 2008)

言語文化論の問題点

アスペクト対立の特徴が考慮されておらず、批判はアスペクト論に拠っていない

批判される接頭辞動詞のほとんどが no-動詞、しかし接頭辞 no-の特徴は示されていない

3.2. 現れては消える接頭辞 no- — テキストの校閲

・オリジナルの発言、電子媒体、紙媒体の比較

例文 3 (Ventas Balss. 31.03.2011 オリジナルの発言、電子媒体)

Visvairāk mani nošokēja tas, ka zinātnieki pat teorētiski nevarēja
 最も-最 私-対 NO-ショックの状態にする-過3 それ 従 学者-複 さえ 理論的に 否-できる-過3
 paredzēt tik spēcīgu zemestrīci un tās izraisīto cunami vilni.
 予期する それほど 強い 地震-対 そして それ-属 引き起こす-受過 津波 波-対

私が最もショックだったのは、学者達が、あれだけ巨大な地震とそれが引き起こした津波を理論的にも想定できなかったことだった。

例文 4 (Ventas Balss. 31.03.2011 紙媒体)

Visvairāk mani šokēja tas, ka zinātnieki pat teorētiski nevarēja
 最も-最 私-対 ショックの状態にする-過3 それ 従 学者-複 さえ 理論的に 否-できる-過3
 paredzēt tik spēcīgu zemestrīci un tās izraisīto cunami vilni.
 予期する それほど 強い 地震-対 そして それ-属 引き起こす-受過 津波 波-対

私が最もショックだったのは、学者達が、あれだけ巨大な地震とそれが引き起こした津波を理論的にも想定できなかったことだった。

・同一記事における同一の映画のあらすじ

例文 5 (Diena.01.03.2001 スペル訂正)

Pārsteigts par Hela aprobežotību, viņš to nohipnotizē un iedveš
驚かせる-受過 ついて Hela-属 偏狭さ 彼 それ-対 NO-催眠術にかける-現3 そして 植え込む-現3
viņam spēju saskatīt iekšējo skaistumu pat fiziski visnepievilcīgākajā sievietē.
彼-与 能力-対 見出す 内部の 美-対 さえ 物理的に 否-魅力的な-最 女性-位
ハルの偏狭さに驚いた彼 [超能力者] は、ハルを催眠術にかけ、外見があまり魅力的でない女性の中にも、
内面の美を見抜く能力を植え込んだ。

例文 6 (Diena.01.03.2001 スペル訂正)

Pārsteigts par Hela aprobežotību, viņš to hipnotizē un iedveš
驚かせる-受過 ついて Hela-属 偏狭さ 彼 それ-対 催眠術にかける-現3 そして 植え込む-現3
viņam spēju saskatīt iekšējo skaistumu pat fiziski visnepievilcīgākajā sievietē.
彼-与 能力-対 見出す 内部の 美-対 さえ 物理的に 否-魅力的な-最 女性-位
ハルの偏狭さに驚いた彼 [超能力者] は、ハルを催眠術にかけ、外見があまり魅力的でない女性の中にも、
内面の美を見抜く能力を植え込んだ。

・発話における no-動詞から基動詞への言い直し

例文 7 (Kā labāk dzīvot. 03.05.2010)

(..) iespējams, ka viņas šobrīd sa- noaktuali aktualizējušās, jā?
可能性がある 従 それ-複 現在 顕在化する-能過 はい
おそらくそれら [夢を見ることの価値] は現在 #、顕 #、顕在化してきていますよね。

・出席するべき党大会に出席せず、欠席の電報を送り忘れたことを詫げる大統領の発言

例文 8 (BNS. 02.03.1998, Lauku Avīze. 03.03.1998, Neatkarīgā Rīta Avīze. 03.03.1998)

«Atgriezies atpakaļ konstatēju, ka es esmu liels palaidnieks bijis un es
戻る-能過 元に 確認する-過1 単 従 私 be-現1 単 大きな 不屈き者 be-能過 そして 私
neesmu šo nokontrolējis un nogarantējis telegrammas aizsūtīšanu»
否-be-現1 単 これ-対 NO-コントロールする-能過 そして NO-保証する-能過 電報-属 送信-対
teica G. Ulmanis un piebilda, ka (..) .
言う-過3 そして 付け加える-過3 従

「戻ってきてから、私は大変な不屈き者であり、これをコントロールせず、電報の送信を確実に行わなかつたことを確認した」と G・ウルマニスは言って、(...) と付け加えた。

例文 9 (Vakara Ziņas.03.03.1998)

«Atgriezies konstatēju, ka es esmu liels palaidnieks bijis un es
戻る-能過 確認する-過1 単 従 私 be-現1 単 大きな 不屈き者 be-能過 そして 私
neesmu šo kontrolējis un garantējis telegrammas aizsūtīšanu»
否-be-現1 単 これ-対 コントロールする-能過 そして 保証する-能過 電報-属 送信-対
teica G. Ulmanis un piebilda, ka (..) .
言う-過3 そして 付け加える-過3 従

「戻ってきてから、私は大変な不屈き者であり、これをコントロールせず、電報の送信を確実に行わなかつたことを確認した」と G・ウルマニスは言って、(...) と付け加えた。

例文 8 と例文 9 の比較→ アスペクト対立の顕在化

PFV の否定：動作の部分否定 動作自体は行ったが結果を伴わなかった

IPFV の否定：動作の全否定 動作自体が行われなかった

15 人のインフォーマントの意見

接頭辞の必要性を積極的に支持 2 名、中立な立場 4 名、必要ない 9 名

no-動詞 (PFV) に可能の意味 4 名

no-動詞 (PFV) が具体、基動詞 (IPFV) に一般の意味 3 名

3.3. アスペクト論から

基動詞はアスペクト対立に中立、no-動詞の許容度に世代の差 (Hauzenberga-Šturma 1979)

文脈によるアスペクト対立では不十分なので、接頭辞付加をする (Kalnača 1998)

基動詞は PFV か IPFV か、PFV/IPFV か？

ラトヴィア語のアスペクト対立の特徴

- ・一般的な事実を述べる場合「非進行・進行」の対立が中和されやすい
- ・「具体・一般」の対立は現象に固有のものでない
- ・文脈を考慮に入れると動作をプロセス化できる

継続時間を示す時間対格 *aiz-iet divus gadus* 「2 年かけて (競技から) 引退する」

所要時間を示す時間位格 *aiz-iet vienā dienā* 「1 日で (競技から) 引退する」

・進行中の動作に捉えにくい動作にもアスペクト対立があり、IPFV は習慣や反復しか示さない

pie-celties / celties 「起き上がる」 *pa-ņemt / ņemt* 「取る」

→基動詞に PFV の意味が認められても、アスペクト対立の形成の妨げにはならない

借用語の動詞の相対的 PFV 化の解釈

<i>citēt</i> 「引用する」	PFV/IPFV どちらにも捉えられる
---------------------	---------------------

<i>likvidēt</i> 「排除する」	PFV に近い
------------------------	---------

↓ PFV 化の接頭辞付加

no- <i>citēt</i>	PFV 動詞
------------------	--------

no- <i>likvidēt</i>	PFV 動詞
---------------------	--------

↓ PFV 化の存在自体が相対的に基動詞を IPFV 化

<i>citēt</i>	IPFV 動詞
--------------	---------

<i>likvidēt</i>	IPFV 動詞
-----------------	---------

4. no-動詞と基動詞のアスペクト対立

「非進行・進行」、「具体・一般」、no-動詞の「可能」の意味など

例文 10 (Latvijas Avīze. 27.12.2003)

(..) šoferītis ieiet noformēt dokumentus (..). Formē, formē, kamēr
運転手 入る-現3 NO-記入する 書類-複対 記入する-現3 記入する-現3 する間
noformē.
NO-記入する-現3

運転手さんは書類の記入のために中へ入る。書類を記入し終わるまでずっと記入している。

例文 11 (Diena. 19.06.2010)

(..) aizbildinoties ar naudas trūkumu, šo muzeju likvidēs, to teātri aizslēgs,
弁解する-副 で 金-属 不足 この 美術館-対 閉鎖する-未3 その 劇場-対 閉鎖する-未3
vēl kaut ko likvidēs. Kamēr būs viss nolikvidēts.
また 何か-対 閉鎖する-未3 する間 be-未3 すべて NO-閉鎖する-受過

金不足を口実にして、この美術館も閉鎖、あの劇場も閉館、他の何かもまた閉鎖されるだろう。何もかも閉鎖されるまでね。

・言語文化論が推奨する文の同種成分のアスペクトの一致 (Freimane 1993)

例文 12 (Freimane 1993, 229)

Viņi stāstīja un parādīja diapozitīvus par šo interesanto braucieni.
彼ら 語る-過3 そして 見せる-過3 スライド-複対 ついて この 面白い 旅行

彼らはこの面白い旅行について語り、スライドを見せた。

推奨例 Viņi pa-stāstīja un pa-rādīja (PFV) または stāstīja un rādīja (IPFV) で統一すべき

⇔言語文化論が批判する PFV 化の接頭辞付加と矛盾

例文 13 の一連の動詞は IPFV の基動詞 art 「耕す」、ecēt 「ハロー掛けをする」、federēt 「スプリング掛けをする」、kultivēt 「耕運機で耕す」、sēt 「種まきをする」

例文 14 の一連の動詞は PFV の接頭辞動詞 uz-art, no-ecēt, no-federēt, no-kultivēt, ie-sēt

例文 13 (Ogres Ziņas.22.08.2002)

Kolhozā darīju visus zemnieka darbus – ar zirgiem : aru,
コルホーズ-位 する-過1単 すべて 農民-属 仕事-複対 で 馬-複 耕す-過1単

ecēju, federēju (literārajā valodā – kultivēju),
ハロー掛けをする-過1単 スプリング掛けをする-過1単 標準的な 言語-位 耕運機で耕す-過1単

vagoju, sēju, plāvu.
プラウ掛けをする-過1単 蒔く-過1単 刈る-過1単

コルホーズで私はすべての農作業を馬の力で行った。畑を耕し、ハロー掛け、スプリング掛け (標準語では「耕運機で耕す」)、プラウ掛け、種まき、刈り取りをしたものだった。

例文 14 (Bauskas Dzīve.14.02.2007)

Laukus rudenī uzara, pavasarī nošļūca, nokultivēja (toreiz teica
土地-複対 秋-位 耕す-過3 春-位 レーキで均す-過3 耕運機で耕す-過3 当時 言う-過3
„nofederēja”), noecēja, pievēla, iesēja, izmantojot
NO-スプリング掛けをする-過3 NO-ハロー掛けをする-過3 ローラーで均す-過3 蒔く-過3 利用する-副
tikai un vienīgi zirgvilkmes agregātus.
だけ そして 唯一 馬力-属 農具-複対

馬に引かせる農具だけを使い、秋には畑を耕し、春にはレーキで均し、耕運機で耕し（当時はスプリング掛けと言った）、ハロー掛けをし、ローラーで均し、種まきをした。

5. 他の接頭辞と比較した接頭辞 no-の特徴

・PFV 化の接頭辞＝基動詞が示す動作の空間的意味に一致する空間的意味を持つ接頭辞 iz-lasīt / lasīt 「読む」(iz- 「通」) uz-rakstīt / rakstīt 「書く」(uz- 「上」)

・他の接頭辞が空間的意味を残して動詞を PFV 化するのに対し、no-は空間的意味「下」「離」を加えずに動詞を PFV 化。no-動詞の件数は他の接頭辞動詞に比べ全体的に少ない。

「保存する」ie-konservēt (2816) no-konservēt (3) (ie- 「中」)

「ダムにする」 aiz-dambēt (734) no-dambēt (7) (aiz- 「遮」)

「プラスする」 pie-plusot (687) no-plusot (1) (pie- 「付」)

・接頭辞 sa- (空間的意味「共」)は、「共」「全体性」などの語彙的意味を持つ基動詞と結びつき、PFV 化の接頭辞として機能。この場合 no-動詞の使用が確認されなかったり、no-動詞が平行して存在しても件数が少なく、接頭辞 no-と基動詞と語彙的関連性はない。

「集中させる」 sa-koncentrēt (1475) no-koncentrēt (54)

「体系化する」 sa-sistemizēt (31) no-sistemizēt (0)

「組み合わせる」 sa-kombinēt (693) no-kombinēt (2)

6. まとめ

・アスペクト対立の相対性を考慮に入れることで、借用語の動詞の PFV 化は言語の実態に即して捉えやすくなる。

・接頭辞 no-は、基動詞との語彙的関連性が他の接頭辞と比較して希薄で、多くの場合 PFV 化に特化。件数では他の接頭辞動詞より劣勢であっても広い語彙的意味の基動詞に付加され高い付加率である。

・言語文化論の批判から考えられること

PFV の表示は、命題に影響することが少ない単なる個人的な視点の表示？

→アスペクトと陳述の関係の研究の必要性

本レジюмеで挙げた参考文献

Freimane, Inta. *Valodas kultūra teorētiskā skatījumā.* 『理論的見地から見た言語文化論』 Rīga : Zvaigzne, 1993.

Kalna, Baiba. Kļūdas priedēkļverbu lietošanā. 「接頭辞動詞の使用における誤り」 *Latviešu valodas kultūras jautājumi.* 『ラトビア言語文化論の諸問題』 24. Rīga : Liesma, 1988, 124-127.

Kalnača, Andra. Darbības vārda veida opozīcijas kontekstuālā izpausme latviešu valodā. 「ラトヴィア語の動詞アスペクト対立の文脈における表現」 *Linguistica Lettica.* 2. Rīga : Latviešu valodas institūts, 1998, 247-255.

Ozola, Ārija. Par priedēkļa *no-* lietošanu pabeigtības nozīmē vietā un nevietā. 「完了の意味の接頭辞 *no-* の正用と誤用」 *Latviešu valodas kultūras jautājumi.* 『ラトビア言語文化論の諸問題』 20. Rīga : Liesma, 1984, 128-138.

Šmidebergs, Imants. Par verbiem ar lieku priedēkli. 「余剰な接頭辞を持つ動詞について」 *Linguistica Lettica.* 17. Rīga : Latviešu valodas institūts, 2008, 104-112.

Zemskaja, Elena. Slovoobrazovanie kak dejatel'nost'. 4-oe izdanie. Moskva : URSS, 2009. *Svešvārdu vārdnīca.* Rīga : Avots, 2008. 『借用語辞典』

Valodniecības pamattermiņu skaidrojošā vārdnīca. Rīga : Latvijas universitātes Latviešu valodas institūts. 2007. 『言語学基本用語辞典』

本レジюме中のグロス略号

<p>動詞 現：現在（単純）時制 過：過去（単純）時制 未：未来（単純）時制 1 単：1 人称単数 1 複：1 人称複数 2 単：2 人称単数 2 複：2 人称複数 3：3 人称単数・単数 能現：能動現在分詞 能過：能動過去分詞 受現：受動現在分詞 受過：受動過去分詞 半：半分詞 副：副分詞 命：命令法 願：願望法 義：義務法 伝：伝聞法</p>	<p>名詞 属：属格 与：与格 对：对格 具：具格 位：位格 呼：呼格 複：複数 指：指小形</p> <p>形容詞・副詞 比：比較級 最：最上級</p> <p>その他 be：be 動詞 būt「ある、いる」 受：受動を示す助動詞 tikt 願：願望の助詞 lai 従：従属節を導く接続詞 関代：関係代名詞 否：否定の助詞 助：助詞</p>
--	--